

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 059-334007

Email : suji@keamimwv.com.nip

三條別院に想う

▲三月十九日に春彼岸会が勤められ、今年もオリジナル精進カレー「釈迦礼弁当」が提供されました。三條スパイス研究所の加藤さんより、精進カレーならではの工夫を含めて、三條別院への想いを執筆していただきました。

三條スパイス研究所も今年で七年目を迎え、二〇一八年から三條別院様よりご注文頂いている釈迦礼弁当も、コロナ禍による二〇二〇年を除き五回目となりました。仏教由来の精進料理を基本としまして、動物性の食材を使用せず、野菜や穀物等の植物性の食材で献立したお弁当です。春彼岸会の法要後の御齋としてご用命いただき、毎年楽しみにされているというお声を嬉しく思います。季節は初春ということもあり、露の臺などの山菜やこの時期旬をむかえる食材を多用し、料理を楽しむ上での五味（塩味、甘味、苦味、酸味、旨味）のバランスを意識しつつ、食材そのものが持つ味の個性と三條スパイス研究所ならではのスパイスとの相性を楽しんで頂けたら幸いです。さて、スパイスというと「辛い」というイメージが先行してしまいがちですが、スパイスにも辛いだけではない、胡麻に似たスパイスもあつたりと日本人に馴染みのある和食にも合うスパイスは

たくさんあり、今回のお弁当にも使用しております。さて、スパイスの使い方？と疑問に思われる方も多くいらつしやると思いますが、ホールスパイスという多くは種子の形をした原形を油で熱し、深い香味を出す方法や、粉状にして卓上スパイスの様な瞬間的な香りを楽しんだり、数種類のスパイスを混ぜ合わせて肉や魚の切り身等に揉み込んだりと様々です。スパイスを使用した場合の味の構成としては主となる食材の栽培方法と類似した要素のあるスパイスを掛け合わせます。

例としては、土に根を生やしたじゃがいも等の根菜には同じ栽培方法により収穫されるターメリック（日本名：ウコン）と相性が良かったりという具合に、環境下が似た食材同士で調理すると美味しく仕上がります。前述の通り、基本的には似たもの同士を組み合わせると上手く行くのですが、料理の面白さといいますが、スパイスの魅力は未知の組み合わせを試してみるのも楽しみの一つです。店名にもある通り日々新しいスパイスの組み合わせも研究しております。三月中旬よりコロナ禍でのマスク着用の緩和が少しずつではありますがはじまり、近場や遠方へのお出かけをご予定の方もいらつしやると思います。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りいただけますと幸いです。

加藤 功 氏（三條スパイス研究所）



【書院で釈迦礼弁当の献立を説明する加藤氏】

○今回の「三條別院に想う」は、

松木 祐子 氏（第二十四組 専明寺）

よりご執筆いただきます

▲次号は、今年三月に三條真宗学院を卒業された松木氏にご執筆いただきます。

三条別院春彼岸会が三月十八日から二十日まで、二昼夜三日間にわたり勤められました。本年の法話講師は木名瀬勝氏（東京教区浄安寺衆徒、元本山研修部補導主任）。三日間を通して全四座、お話しいただきました。「浄土真宗のわからなさ」をテーマに、私が仏を対象としてわがろうとすること自体が問題なのだとお話を始められました。先生の二十代はさまざまな思想・宗教書を遍歴し、剃髪して座禅のまねごともし「青春時代はなかった」そうですが、縁あって真宗大谷派の寺院に入寺したのがきっかけで、始めて浄土真宗であったそうです。それまで書物で読んでいた仏教と浄土真宗はかけはなれていて「わからない」と悩まれたそうですが、そのわからなさの原因を考えることで真宗に触れていったそうです。その後、事情があり寺を出ることになり、職を変えられたそうですが、三重教区で駐在教導をすることになり、桑名別院の婦人会から「仏教の優しさ」を、そして教区内僧侶から「仏教の厳しさ」を同時に教わり、その後名古屋教区駐在教導・本山研修部の職を経て、本山を退職して現在に至るそうです。人生の残りは親鸞聖人の名著『教行信証』を読んでいきたいということで、法話の後半は『教行信証』の読み方についてお話しされました。詳しくは三条別院のYouTubeチャンネルをご覧ください。



【春彼岸法話講師の木名瀬 勝 氏】



【チャンネル登録お願いします】

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年
立教開宗八百年慶讃定例法話会

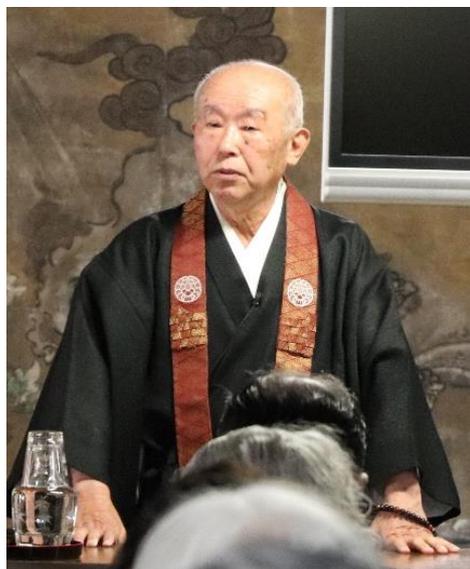
毎月十三日の闡如上人のご命日の定例法話会を宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃お待ち受け事業として昨年より継続しております。

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

◆三月の講師

黒田 進 氏（長浜教区満立寺）



◆日 時 四月十三日（木）

午後一時三十分より

午後四時三十分（勤行、座談あり）

◆今後の講師

五月 井上 円 氏（高田教区浄泉寺）

六月 藤場 芳子 氏（金沢教区常讃寺）

三 条 別 院 公 開 講 座

- ◆ 期 日 六月十二日(月)
- ◆ 時 間 午後六時三〇分〜午後九時
- ◆ 講 義 二二〇分、質疑応答あり
- ◆ 講 師 中島 岳志氏
(東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院)



本年の三条別院公開講座の講師は、昨年引き続き、中島岳志氏に決定しました。『朝日平吾の鬱屈』『血盟団事件』等、戦前の政治テロを研究対象としている中島氏は、元首相の狙撃事件についてメディア等でたびたび発言されています。多方面にわたりご活躍をされ、多忙な先生ですが、今回は直接三条別院に来ていただいでご講義いただける予定になっております。(平日・夜の開催)。詳細な内容については講師の先生と相談中ですが、今年は専門の政治学について、現在の日本における政治情勢について、著作『親鸞と日本主義』を踏まえながらお話しただく予定です。みなさんぜひお越しください。

宗 祖 御 命 日 の つ ど い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◆ 日 時 四月二十八日(金) 午前十時より
- ◆ 会 場 三条別院 本堂
- ◆ お勤め(御命日) 日中法要

文類偈 行四句目下
念仏讚 洵五

和 讚 回口 次第六首
回 向 願以此功德

◎今月の法話講師

渡邊 智子氏 (高田教区本立寺)

『御文』五帖目第十四通(上臈下主)

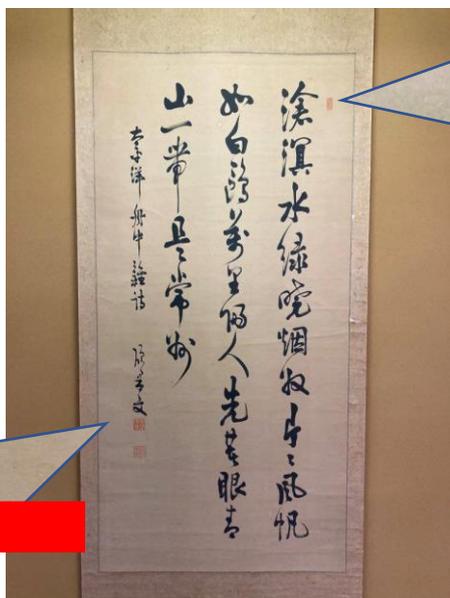
▲昨年に引き続き御文五帖目をテーマにお話しさせていただきます。五月からは御文一帖目がテーマとなります。

◆今後の講師一覧

- 五月 宮本亮二氏 (高田教区榮恩寺)
- 六月 朝倉 奏 氏 (第二十組金寶寺)
- 七月 大久保州 氏 (佐渡組廣永寺)
- 八月 佐々木恵一郎氏 (第十組行通寺)
- 九月 本多 智之氏 (第十八組永傳寺)
- 十月 八田裕治氏・八田摩矢子氏 (第十七組淨福寺)
- 十一月 田村 大輔氏 (第二十組専念寺)
- 十二月 橘 出氏 (第十八組久唱寺)

初 歩 の 篆 刻 (はんこ作り) 教室

一昨年開催し好評であった三条別院書道教室の木原光威先生による「初歩の篆刻(てんこく)教室」の第二回を開催します。第一回は白文でしたので、第二回は**朱文(やじるし参照)**を作製します。雅号や法名、座右の銘などを決めていただき、先生で用意していただいた石と篆刻刀で掘ります。もちろん白文でも大丈夫です。五月十七日(水) 昼の部午後三時から五時、夜の部午後六時半から八時半、参加費二千円です。詳しくは案内チラシをご覧ください。



引首印
「為法不為身」

上 白文

「南条文雄」

下 朱文

「東」



フードバンクを継続中

―三月の別院でのフードドライブにご協力いただいた御寺院・御門徒―

第十一組照覺寺 第十一組寺泊養泉寺 第十九組行順寺
匿名含め多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。
次回引き取り予定日は四月二十四日(月)です。

その他の講座案内

○別院書道教室 (生徒募集中!)

〔月一回第二、第四水曜日、午後六時三十分～八時〕
講師 木原 光威氏 (新潟県書道協会理事)
月謝三,一〇〇円 (テキスト代含む)

○別院声明教室

夜の部 (午後六時～八時)
講師 長田 淨見氏 (第十六組善興寺)
昼の部 (午後三時～五時)
講師 別院列座

開催日 二月十四日(火) (済)
三月六日(月) (済)・四月十日(月)
五月二十三日(火)・六月五日(月) (全五回)

随時募集中

○有志の会座講「毎月十三日」

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか?
毎月十時から、午後は定例法話を聴聞します。
お気軽にご参加ください。

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。三月には春彼岸の立花を行う予定です。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(絵像)をお迎えして、聞法会を開催しませんか?

○別院奉仕研修について

半日の奉仕研修等にも対応しております。
ぜひご検討ください。

【奉仕研修修金】

一人あたり半日(午前または午後) 五百円、一日千円
一泊二百は上記の修金に順じて半日五百円で計算する。
【その他実費でいただくもの】

- ①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は研修冥加金に含まれる。
- ②シーツ等クリーニング代千円
- ③食事代(ご要領等)ございましたらご相談承ります。

別院主催の慶讃法要団体参拝中止の報告

いよいよ本山で慶讃法要が始まり、各組・各寺院での団体参拝が実施されます。三条別院では各組の団体参拝に参加できなかった方々を主な対象に参加者を募集しておりますが、三月十四日の募集締切時に参加者が僅少であったため、中止を決定させていただきました。なお、参加予定者には、定員に空きのある近隣の組の団体参拝を紹介させていただいております。

◆編集後記◆

三月二十五日から本山で親鸞聖人御誕生八百年、立教開宗八〇〇年慶讃法要が始まった。三条別院では昨年度より毎月十三日の定例法話を、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学習会を兼ねて、県内外からの講師にお話をいただいていた。

私は二〇一九年に慶讃テーマが決定された年、ある組の推進員の会でテーマについて話してほしいと依頼があり、ひねくれている私は、「人」とはそもそも仏教では肯定すべきものではなく、「地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人・天」の六道であり、乗り超えられるべきものとして捉えられている、と話したのを覚えているが、私にとつては、いまだそれを課題にして定例法話を聞いてきた。

この三月の講師の田澤一明氏は、人間を尊敬することのできない私たちに尊敬が始めて成り立つのが「浄土」であり、親鸞聖人が「貴賤・縮素を簡ばず、男女・老少を誦わず、造罪の多少を問わず、修行の久近を論ぜず」(『教行信証』信巻)と表現されていることが手がかかりになるのでは無いかと話された。世間の対立を超えている世界。ひねくれている私は座談会で、「しかし浄土と娑婆が対立することで、浄土が人間中心の娑婆世界に変化してしまう問題があるのではないか」とつぶやいた。

この問題提起は、自分自身への問題提起である。新型ウイルスと日々の生活に迫られて、いつのまにか慶讃法要が始まってしまったが、そのことをあらためて考えていきたい。

(齋木)